

令和3年度卓越した技能者の表彰各部門を代表する技能者について

(目次)

第 1 部門	稲坂 徳太郎	(鍛冶工)	第 11 部門	石丸 春光	(造園工等)
第 2 部門	廣澤 実	(研磨盤工)	第 12 部門	桑原 晴彦	(化学製品検査工)
第 3 部門	楠本 好行	(打抜プレス工)	第 13 部門	金澤 良吉	(木製建具製造工)
第 4 部門	長田 浩	(産業用機械組立工)	第 14 部門	永井 紀之	(洋菓子製造工)
第 5 部門	加藤 成義	(民生用電子・電気機械器具組立工・修理工)	第 15 部門	根津 英和	(理容師)
第 6 部門	千葉 孝貴	(自動車整備工)	第 16 部門	早乙女 哲哉	(天ぷら料理人)
第 7 部門	吹上 重雄	(製糸工)	第 17 部門	吉田 克浩	(畳工)
第 8 部門	佐藤 千鶴子	(婦人・子供服注文仕立職)	第 18 部門	福田 宗男	(広告美術工)
第 9 部門	石川 吉登	(宮大工)	第 19 部門	下出 祐太郎	(蒔絵師)
第 10 部門	藤井 禎夫	(瓦ふき工)	第 20 部門	河本 薫	(データサイエンティスト)

※ 職業部門、氏名（敬称略）及び職種を記載。

1	いなさか とくたろう	88歳	鍛冶工 【下総鍛冶屋 TEL:043-496-1601】	《名簿番号5》
	稲坂 徳太郎			千葉県推薦

○【江戸時代から続く技法で刃物造りに取り組む】

農家などの注文を受け、オーダーメイド形式で、同種類の刃物などを「鍛接・鍛造・水焼入れ」などの日本古来の手間のかかる手法で造っている。70年以上にわたり鍛造の技術を活かして様々な総火造りの刃物造りに取り組んでいる。

国立歴史民俗博物館に展示するために、鎌倉時代の槍かな、室町時代のちょうなの復元作品の製作に従事した。

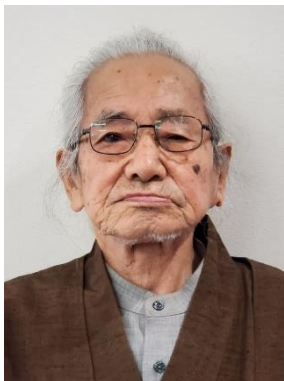
また、伝統継承のため、後進への技術指導にあたっている。

○【日本古来の手法により刃物の製造を続け伝統を守り続ける】

13歳のころから父親の手ほどきを受け、江戸時代から続く総火造りの手法を受け継ぎ、70年以上にわたり佐倉鍛造刃物の製造に取り組んでいる。現在は農具以外に包丁や小刀などの日常生活用品を製作している。苦勞したことに関しては、平成15年の全国植樹祭で天皇・皇后両陛下が使用するための鍬の製造が一番に思い浮かぶ。

町唯一の鍛冶屋としてこれからも生活に密着した製品を一つ一つ丁寧に製造しながら、受け継いできた伝統技術を絶やさぬよう、技術指導も行っていく。

本人近影



〔日本古来の手法により刃物の製造を行っている〕



〔「鍛接・鍛造・水焼き入れ」などの日本古来の手法により製造された佐倉鍛造刃物〕

2	ひろさわ みのる	56歳	研磨盤工	《名簿番号9》
	廣澤 実		【株式会社ミットヨ 宇都宮事業所 TEL:028-656-1111】	栃木県推薦

○【思い描いた形を実現化する 機械加工の特級技能士】

高品質な精密加工技能や専用機の開発技能が卓越しており、研削加工における平面度・面粗さの精度要求対応への技術、技能により、高精度CNC三次元測定機やCNC三次元測定機の量産化に貢献した。また、ミットヨ技能開発センター業務における技能者の育成はもとより、職場における高精度の研削部品加工において、生産技術の経験を生かした技能、技術両面からの指導をするなど後進の育成にも大きく貢献している。

○【知識の幅を広げ、どうすれば効率よく物を作れるか考える】

先輩に勧められた平面研削盤作業の技能検定試験では、徹底的にムダな動作を取り除き時間内に課題を仕上げる事ができ一級に合格した。このことをきっかけに実技の指導員を任される事となったが、作業するのと教えるのとでは勝手が違い知識のなさに恥ずかしい思いを幾度となく経験した。

ある時、自分の体験談を職業訓練校の生徒に話す機会が与えられ、「知識をもっと広げるために機械検査の一級技能士を取得し最終的には機械加工の特級技能士になる事だ。」と自分の夢について思いを言葉にした事で奮起にも繋がり念願の夢を叶える事ができた。

技能士取得に挑戦してきたことにより、沢山の知識を習得する事ができ業務の中で難題にぶち当たった時でもいろいろな角度から物事を冷静に考えられる様になり大変役に立っている。

今後は私の経験と技能そして思いを若い世代へ継承し、皆さんのお役に立ちたい。

本人近影



【材料をより自然な状態で固定し加工できる自在治具】



【大型石材穴明専用機の仕様決定から部品研削、プログラム作成、立ち上げまでを一貫して対応】

3	くすもと よしゆき	71歳	打抜プレス工	《名簿番号18》
	楠本 好行		【株式会社三光製作所 TEL:0532-61-2171】	愛知県推薦

○【超精密金型の匠】

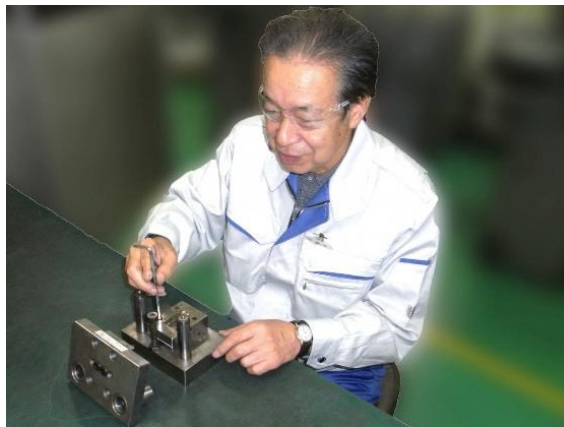
長年にわたり精密金型の開発及び精密小物部品の試作品製作に従事し、精密プレス加工のすべての工程を熟知している。自動車関係のコネクタ端子やカメラ関係の電子接点などの精密小物部品の製作の際に、ロボットによる量産加工を可能としつつ、求められる品質機能を充足した図面以上の形状を具現化することができる。精密金型製作の精度は、工作機械加工の限界精度を超えた0.5μmの精度を実現している。また、豊富な知識と経験を基に生産支援室の顧問として後進の育成にも尽力している。

○【若い時からものづくりを楽しみ技能を習得することが幸せ】

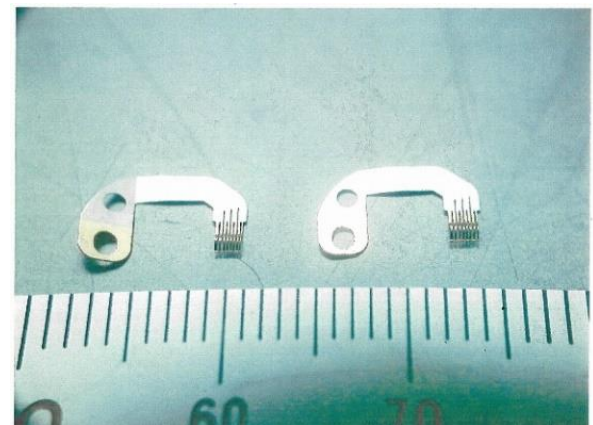
生まれ育った九州を離れ、15歳の時に三光製作所へ入社する。当時の社長の勧めで豊橋工業高校に入学し、会社で技能を習得する傍ら学校で基礎を学ぶ日々を過ごした。最初に経験した仕事は、足踏みプレス機を使用して部品を一つずつ手で加工する作業であった。

カメラ部品の製作には、高い工作機械精度が求められる。入社した当時は機械が充実しておらず、切り刃を長持ちさせるために苦労しながら手作業を行っていた。現在はデジタル技術で誰でも簡単に物を作れる時代となったが、「良い物を仕上げる決め手となるのはやはり『勤と経験』だ」と、長年の修業とそこから得た数多の成功・失敗の経験を重視している。油と汗にまみれ仕事一筋で過ごした半生を振り返り「若い時からものづくりを楽しみ技能を習得することが幸せ」と語る。現在は自身にとって孫のような若手技術者の育成に精進している。

本人近影



[精密金型の組み立て作業風景]



[プレス加工されたカメラ接触部分の精密小物部品]

4	おさだ ひろし	53歳	産業用機械組立工	《名簿番号29》
	長田 浩		【株式会社アイシン 広報部 TEL:0566-24-8232】	愛知県推薦

○【器械（※）動作をシンプルにした故障しない革新的な設備製作の第一人者】

一貫して機械加工・設備製作に従事し、独創的な発想における器械開発の設計から製作まで全てをこなす逸材で、熟練を要する作業をシンプルな動作で誰でも簡単かつ正確に行える「釣瓶落とし式無動力組立生産ライン」を創り、ものづくり日本大賞を受賞した。革新的な組立工法によって、様々な器械に導入され、生産性向上に大きく貢献している。

国内外へ技能を伝承する傍ら、地域の子供たちへものづくりの素晴らしさを伝え、未来の技能者育成に幅広く尽力している。

※ 道具や人力による単純で小規模な治具・装置。

○【お客様ファーストが生み出す器械づくりの可能性】

子供の頃から車が好きで、自動車業界で働きたいと思い自動車部品製造メーカーへ入社。認定職業訓練校で体得したものづくりの楽しさを追求するため、トランスミッション部品を加工・組立する設備製作の部署を希望し、設備の組立調整に携わってきた。

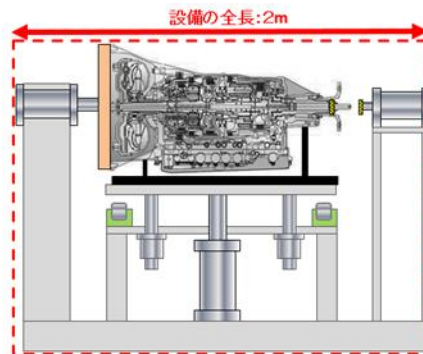
設計者が考えた設備を図面通りに組み立てる中で、「使用する現場の立場に立ち、壊れない、壊れても現場が直せるシンプルでコンパクトな器械を作りたい」と思い、設計から製作における技能を身につけ、これまで多くの器械を製造現場へ送り出し生産に大きく貢献してきた。

『器械づくりの正解は無限にある』を信念に、後進の指導育成に尽力しながら、現在もお客様目線にたった設備製作に日々邁進している。

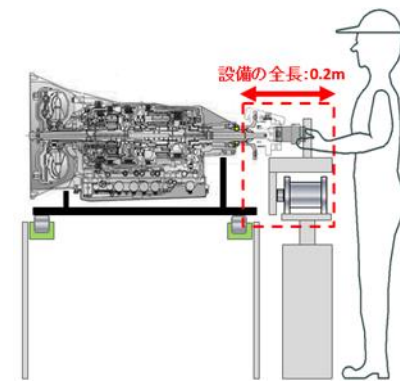
本人近影



[器械の動作確認方法を指導]



[従来構造の設備]



[新構造の設備]

5	かとう なりよし	63歳	民生用電子・電気機械器具組立工・修理工	《名簿番号38》
	加藤 成義		【トヨタ自動車株式会社 TEL:050-3167-6039】	愛知県推薦

○【車両用電子機器 評価一筋】

入社以来、一貫して車両の電子システム開発に従事し、世界中の顧客の車室内使用環境と快適な音響空間の調査に励み、音に対する並外れた感覚を磨いてきた。聴くだけで良質な音を数値で示す音響計測技能、一瞬しか聞こえない高周波ノイズ音を耳で感じ発生源を特定する技能を有し、今日の車両音響システム確立手法の礎を築いた。特許を取得した間接音を制御するスピーカーシステムは、快適な車室内音場開発の先駆けとなった。また県技能検定委員を委嘱されるなど多くの技能士育成にも貢献している。

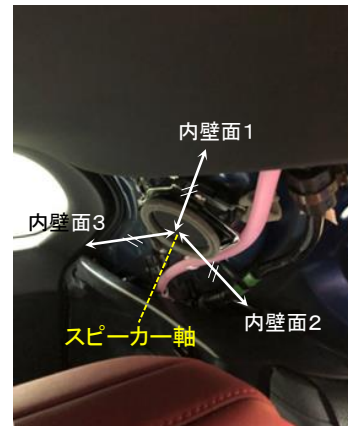
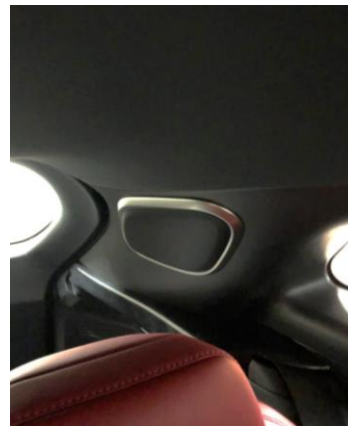
○【お客様のご期待にお応えするクルマと人づくりこそ我が使命】

昭和52年に車両へ搭載する電子機器開発の職場に配属され、電気・電子の知識が殆ど無かったが「これからは車も電子の時代」と言われ始めた時代でもあり「お客様のご期待にお応えする電子部品とは」を念頭に信頼性や耐久性を日々追求。精密で複雑な計測機器や部品の取り扱い習熟に全力で取り組み、常に新たな評価手法・装置開発へのチャレンジを現在も継続。時流を先取りしたクルマづくりには、専門技能を探求する人づくりが重要と考え「電子を極め、電子で創り込み、クルマを電子で語る」を信条に社内教育制度の立ち上げ、自職場はもちろん海外スタッフや技能五輪選手の育成に尽力。近年では、地域の子供たちへの指導にも力を注いでいる。

本人近影



[車両音響評価の様子]



[間接音制御のスピーカー配置]

6	ちば こうき 千葉 孝貴	68歳	自動車整備工 【有限会社丸福自動車 TEL:0197-69-2277】	《名簿番号43》
				岩手県推薦

○【自動車修理の新たな技術獲得の挑戦を続ける、連続可変トランスミッション修理のトップランナー】

50年間にわたり自動車整備に従事し、電子制御装置の故障修理に優れた技能を有する。近年普及が進む連続可変トランスミッションの構造を独自に研究、故障原因を特定する技能やコンピュータ制御の調整を行う技能も習得し、その修理技術を確立した。

また、長年若手整備士の実技指導・育成教育に携わってきたほか、ともに新たな技術獲得に挑戦し続けることで、次代の人材育成に励んでいる。

○【自動車の技術進化に伴う研究及びメカトロクラブの進化】

整備工場の2代目後継者として整備業界に関わり50年がたつ。自動車のコンピューター及び高度化した構造、機能等、昨今の目まぐるしい技術進化の中、「メカトロクラブみちのく」で技術の研鑽と研究を積み重ね、お客様の良きカーライフのためにプロの技術を提供してきた。その実績を基に、今後も後輩の技術向上を指導して発展をするよう努力を重ねていく。

本人近影



【CVTトランスミッション分解修理の様子】



【CVTトランスミッションの再生完成品】

7	ふきあげ しげお	71歳	製糸工	《名簿番号46》
	吹上 重雄		【箔のふきあげ TEL:075-495-1781】	京都府推薦

○【「揉み和紙貼り合わせ引き箔」を考案】

箔押師であり、「柄箔・模様箔」を得意としている。氏が考案した「揉み和紙貼り合わせ引き箔」は、ベースとなる和紙の上に揉んだ薄い和紙を張り合わせることでオウトツが残るように工夫した引箔で、細く裁断した状態でも表面のオウトツが残り、立体的で重厚な織物に仕上がる。この技法を使った「長箔」は、氏の他には制作することができない。また、京都金銀糸工業協同組合等の役員を歴任し、後進の育成にも努めた。

○【同業他社にない、新たな商品開発に尽力】

高等学校卒業後、西陣織の製造販売メーカーに就職。15年後、叔父の急死の為に廃業となり、15年間の仕事が活かせる関連業種の中で、最も自分に適する引き箔製造販売会社に就職。9年後独立した。

西陣地区内の同業他社にない、新たな商品開発が不可欠との思いで、今日まで約30年間継続することが出来た。更に、西陣織業界外に今の仕事が生かされないか試行錯誤し続け、建築資材関係、レザー関連商品、照明器具に引き箔を使用するなど、新たに商品の開発を進めているところである。私を育てて下さった諸先輩から教わった「出来上がった商品や作品は自分の分身である」との教えを念頭に置き、今後も楽しみながら妻と共に仕事ができることを願っている。

本人近影



【引き箔用の特別和紙に、筆で金属粉を描く作業】



【西陣織に使用する特殊な緯糸、引き箔（指定外繊維）裁断前】

8	さとう ちづこ	74歳	婦人・子供服注文仕立職	《名簿番号49》
	佐藤 千鶴子		【アトリエSen TEL:0178-45-5447】	青森県推薦

○【多彩な手工芸技法／デザイン性と機能性を兼ね備えた婦人服仕立技能】

長年洋裁技能の研鑽に励み、多彩な手工芸技法を駆使したドレスの製作技能は、全日本洋装技能コンクールで数々の上位入賞を果たすなど、高く評価されている。また、和服からのリメイク服の縫製に適した独自の手縫い技法・二目一返し（ふためひとがえし）を考案するなど創意工夫により顧客のニーズに合った洋服作りを行う。

自身主宰のソーイング教室や研修会等で技術指導を行うほか、ものづくりマイスターとして小中学生を対象とした体験指導を行うなど、後進育成にも尽力している。

○【着る人の心に寄り添う服作りを目標に】

母親に背中を押され、18歳で上京。以来、洋裁の長い一本道を歩む。

22歳で家政科教師としてスタートするが、29歳で母親が他界し、諸先輩方から多くの指導を受け注文服・デザインリメイク服製作に携わったことで、職人として再スタートを切ることを決意。

平成元年にソーイング教室を併設したオーダーメイド店「アトリエSen」を設立。洋服製作の傍ら地域からの依頼を受けて洋裁研修会も開催。さらに、50代からはほぼ毎年「全日本洋装技能コンクール」に出品し、服作りの奥深さを体験してきた。

半世紀にわたり洋裁に携わり、「服を身に付けることは想いを纏うこと」であり着る人の心に寄り添い続けることの大切さを実感。今後も技能継承に励み、洋裁の奥深さを伝えていきたい。

本人近影



[立体裁断作業の様子]



[イブニングドレス (2017 全日本洋装技能コンクール 経済産業大臣賞受賞作品)]

9	いしかわ よしと	71歳	宮大工	《名簿番号61》
	石川 吉登		【株式会社立川流石建 TEL:024-943-1525】	福島県推薦

○【歴史の重みを受け継ぐ確かな技能】

300年の歴史を持つ流派平茂寺立川流の9代目を受け継ぎ、和様建築を基本とした社寺建築に卓越した技能を有しており、代々受け継がれてきた正方形の巻斗（まきと）を長方形にすることで建物をやわらかく見せる技法を生み出した。また、弟子や職人など後進の育成に努めるとともに、福島県の職業能力開発校の非常勤講師として学生の指導も行ってきた。

○【魂を込めて造り上げる】

小学生の頃から工作が大好きで、その頃から大工になろうと思っていた。16歳から20歳まで弟子奉公した後、更に、東京で大工の勉強に励んだ。28歳で初めて手がけるお寺の本堂の材木に、差金を使い墨差しに触れた時に、寺やその檀家に対する責任を強く感じ体中に行き渡ったことを今でも覚えている。

墨付とは何か、神社仏閣に合う形状とはどのようなものか、常に奥義を研究しながら更に修行を重ね精進し、日本の風土に合う1000年以上耐えうる社寺建築の技法や技能を守るため、流派を継承していくことが9代目としての使命だと思っている。

本人近影



〔尾榿墨付け〕



〔聖天院本堂及び裳階付鐘楼堂（埼玉県日高市）設計施工〕

10	ふじい さだお 藤井 禎夫	64歳	瓦ふき工 【有限会社フジイ瓦工業 TEL:090-1990-7264】	《名簿番号67》
	団体推薦			

○【日本瓦の伝統工法を守り、現代建築にもその技術を生かす瓦葺き職人】

日本瓦の伝統工法において、伝統建築物の瓦屋根を守り、その技術を継承している。複雑な屋根形状を原寸図で表す技術確立し、技能に係わらず設計通りの形状で耐震・耐風性等を満たす施工を可能にした。また、社寺建築や文化財だけでなく和風・洋風を問わず現代の建物にもその技術を生かしている。ものづくりマイスターとして講師を務め、原寸図作成から施工までを指導し、次世代リーダーの養成に取り組んでいる。

○【瓦葺き技能の研鑽に努め、伝統を後世に残すことを目指す】

学生時代に見た、中国の天壇公園にある祈年殿建物の写真に触発され、古社寺に興味を持ち、後に師となる方と出会い、瓦葺き職人の道へと進んだ。

昭和52年より40年以上に渡り、瓦工の業務に従事し、技能の研鑽に努めてきた。伝統技法である瓦葺きを現代に生かすとともに後進技能者の指導育成にも尽くし、伝統を後世に伝えていくことを目指している。

静岡県湖西市新居町の特別史跡新居関跡大御門復元工事に於いては、発掘調査により発見された瓦残欠より当初の瓦形状を割出し、研究者や設計者に貴重な助言を行い、大御門復元工事を担当した。苦労も多かったが、その中に楽しみもあり印象深い現場となった。

本人近影



[昭和初期のフランス瓦復原施工現場の状況]



[拝島山本覺院五重塔新築工事]

11	いしまる はるみつ	70歳	造園工等	《名簿番号78》
	石丸 春光		【株式会社伊万里春光園 TEL:0955-23-2368】	佐賀県推薦

○【自然美の感性を追求し建物と調和した庭作り】

伝統的な日本庭園の技術の研鑽のみならず、新しい技への挑戦にも意欲的に取り組み、竹垣の新技术や、地域に埋もれた材料の活用など独自の造園美学に卓越している。数多くの自然や異業種との交流を通し、伝統的な造園技術の中に新しさを取り入れた庭づくりを行うとともに、将来を見据え庭を育てる意識もあわせ、その技術を紹介している。

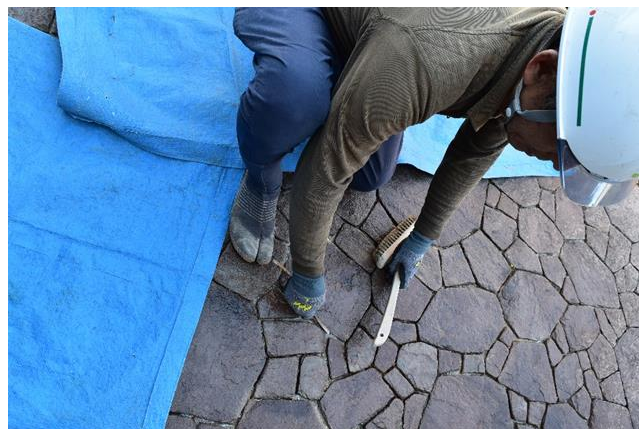
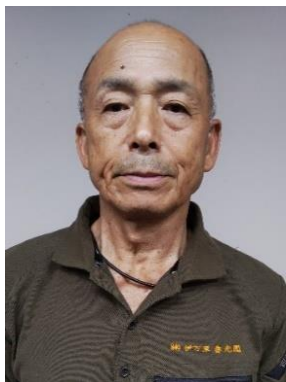
また、洗練された技能で行う指導で、技能の継承と後進の育成に貢献するとともに、小中学校でのものづくり体験により、造園業の魅力発信に努めている。

○【伝統を重視し新しい技術の継承】

高校の恩師の勧めで庭園の本場京都へ修行に行くも、2年間はスコップやクワを持ち植木堀取りのみの仕事であった。庭の勉強をしたく、石積、貼石、竹垣を得意とする数名の親方の元へ修行に行き技を伝授いただいた後、4年後地元佐賀へ帰る。地元では庭に使う材料が少なかったため、石山から景石や石積用の石を出したり、碎石場の石をうまく利用したりと一味違った庭を心掛け、伝統の技を駆使した現代に合う庭作りをしている。

現在は、日本造園組合連合会の技術技能委員会（専門委員）や技能グランプリの審査委員を務め、造園業界の発展に尽力するとともに、技能五輪の世界大会出場者の育成や全国各地での竹垣の指導等により、造園技能者の技術向上や後継者育成に貢献している。

本人近影



【アプローチの貼石作業】



【玄関前の自然石蹲・竹穂垣・砂岩鉄平乱張り・彼杵石の石積】

1 2	くわばら はるひこ	6 4 歳	化学製品検査工	《名簿番号83》
	桑原 晴彦		【株式会社環境科学 TEL:0263-88-8808】	長野県推薦

○【自身の経験を活かし、器具の改良・活用等も行う化学分析の第一人者】

環境調査や環境測定分析、化学分析等において卓越した技能を有している。業務に従事する中で培った知識・技能・資格等を活かして、化学分析の滴定で使うビュレットの改良・余色フィルターの活用による滴定分析の改善を行い、分析精度の向上や作業時間の短縮にも貢献した。また、化学分析技能士会を設立し、会長として技能検定の受験者数拡大に尽力した。県内の中学校・高校では実技指導を行い、信州ものづくりマイスターや全技連マイスターとしても後進の育成に努めている。

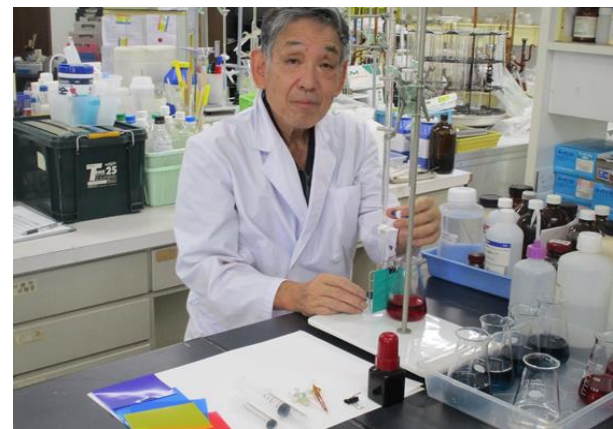
○【先代からの学びを後世へ受けつぐ】

化学分析は、環境衛生、工業材料、金属、医療・医薬、食品等と生活に関わり、社会的に広い分野で活用されている。しかし、その知名度は余り知られていない側面もある。私は昭和31年（1956年）に伊勢市で生まれ、バス遠足で名古屋に行く機会があった。その途中の四日市では昼間なのにスモッグで前が見えず、窓を開ければ喉が痛くなる体験をした、いわゆる四日市ぜんそくである。昭和31年は熊本県水俣市の水俣病が認定された年でもあり、これを契機として化学分析に惹かれ現職に至っている。化学分析では、先代に「化学物質の使い方」、「自然に学び、化学分析で数値化し、再び自然に戻す」ことを教わった。これを今後、首席技能検定委員として、若い人々に伝えていきたい。

本人近影



[川の汚れを調べる溶存酸素の測定]



[改良ビュレットによる発電所冷却水の品質管理測定]

13	かなざわ りょうきち 金澤 良吉	70歳	木製建具製造工 【株式会社カナザワ建具店 TEL:0247-46-3681】	《名簿番号91》

○【組子製作の第一人者！感動を生む美しい作品の数々】

木製建具製作に55年従事し、特に組子製作においては、国産針葉樹、広葉樹の自然色による赤・青・黄の木材3原色を活かした組子を、国内の業界で初めて確立した。さらに、独自に全自動加工機械装置を編み出し、0.01mm精度の加工法を確立し、「ふくしま組子・木良(きら)」というブランドとして、一般住宅の木製建具に取り入れ、業界の発展に寄与している。技能グランプリ入賞者を育てるなど技能者育成・指導にも貢献している。

○【誠実なれ～決して手を抜かず作業し、製品を造る～】

農家に生まれたが、幼少の頃よりものづくりが好きだった私を見た父が、中学卒業前に「指物大工になれ」と勧めてくれたのがきっかけで、隣町の建具店に就職した。弟子の頃は修業のため師匠宅に住み込み、右も左も分からなかった上に、木材種や道具の種類を覚えるのに大変苦労した。職人時代を経て27歳で独立してからは、お客様はもちろん、仕入れ先様からの信頼を得たうえで仕事をいただくことに苦労した。製作においては、自身の能力をもって創造し、真心を込め、技を活かした製品であり、お客様のものでもあるので、すべての過程で細心の注意を払い、大切に扱うことを心がけている。

本人近影



〔組子用鉋で部材加工の作業中〕



〔第43回全国建具展示会静岡大会出品作品
内閣総理大臣賞受賞 組子入間仕切戸～春夏秋冬～〕

14	ながい のりゆき 永井 紀之	60歳	洋生菓子製造工 【パティスリー・ノリエット TEL:03-3321-7784】	《名簿番号97》
	団体推薦			

○【フランス菓子技術の普及・向上と人材育成に尽力】

欧州での製菓修業を通じて取得した「パート・ド・フリユイ」などのフランス地方菓子や「クロカンブッシュ」のような大型工芸菓子の技術の紹介に努めると共に、我が国の風土や気候に適したそれらの技術改良と普及に精力的に取り組み、80年代以降の我が国洋菓子界の充実に多大な貢献をした。また、身障者の社会進出を支援する福祉活動にも積極的に取り組むなど、長年携わってきた洋菓子業界の人材育成活動と共に、社会人、職業人としての在り方にも自らの高い志を貫いている。

○【洋菓子作りを通じて我が国の食文化向上に貢献したい】

もともとはフランス料理の料理人を目指していたが、ある時、フランス菓子の河田勝彦氏の存在を知り、その大きな影響を受けて渡欧。フランス、スイス、ルクセンブルク等で6年間菓子の修業を続けた後、帰国。当初は全く相手にされず厳しい現実と直面したが、根気よくその紹介に努めた結果、徐々に認知されるようになり今日に至っている。ヨーロッパの菓子には、その美味しさを後世に残したいと考える人々の思いが今日まで伝わってきた歴史があるが、自分も、その美味しさを十分の理解できるようになるまで菓子作りに取り組み、その結果として、日本の食文化の発展に少しでも貢献できれば嬉しい限りだ。

本人近影



【パート・ド・フリユイの製作風景】



【フランスの地方菓子パート・ド・フリユイ】

15	ねづ ひでかず	60歳	理容師	《名簿番号106》
	根津 英和		【HAIR SALON NEZU TEL:075-631-2414】	団体推薦

○【卓越したカット技術を有し理容業界の発展にも尽力】

人の頭部には凹凸があり、凸部では毛が立ち、凹部では毛が寝ているため、頭部の形に合わせて同じようにカットをしていると頭部の凹凸がそのまま表現されたヘアスタイルになってしまうが、氏は凹凸に合わせてカットし、骨格補正を行うルーツセニングという卓越した技術を有しており、一時的ではなく時間が経っても収まりの良いヘアスタイルにすることを可能にした。

また、理容業界の技術の向上発展に尽力し、理容師の社会的地位の向上に努め、後進理容師の指導・育成に多大な貢献をしている。

○【お客様の人生の手助けをできることに喜びを感じる】

親孝行したいと思ったことをきっかけに家業を継ぐことにした。修行時代は接客業の難しさに直面したが、お客様に喜んで戴けることにやりがいを感じるようになってからは、理容業の魅力に気づき技術の向上に努めた。

人によって髪を生え方や頭の骨格が異なるため、その人に合わせた補正カットを大切にしている。また、就職活動や入試の面接前に髪を整え印象を良くすることで、お客様の人生の手助けをできることに喜びを感じながら仕事をしている。

今後も技術の研鑽を重ねつつ、これまでに習得した技術や自分の経験をより多くの若者に伝えることで、後継者育成に貢献したいと考えている。

本人近影



[カットの作業風景]



[フェードカット]

16	そうとめ てつや	75歳	天ぷら料理人	《名簿番号114》
	早乙女 哲哉		【有限会社てんぷらみかわ TEL:03-3643-8383】	一般推薦

○【天ぷらの調理技術を進化させ業界のレベルの底上げと発展に尽力】

江戸前の魚介を油と小麦粉を使い天ぷらという日本が世界に誇る調理技術をさらに進化させた。薄い小麦粉の衣と高温の油との技で比類なき食の世界を生み出した。食材の旬の時期を極めて天種を一番良い状態に引上げる。天ぷらは食材に対し、「蒸す・焼く」という効果を衣と水分と油の温度を操り、外はカラッと中心はレアに仕上げる。天ぷらの油の温度の常識が180度に対し、200度～230度で揚げる高温の扱いの工夫を確立した。その技を調理師学校の学生や若い料理人に伝授している。

○【日々研鑽を続け、検証を怠らない】

小学校1年生の時から、自分の朝食と弁当を自ら作っていた。我が家が新聞の専売店を営んでいた為、家族全員で朝は配達をしていた。その関係で小学校3年生になると、家族の賄も私の係であった。そんな環境で育ったので、自然と大人になったら料理の道に進むのが自分の中での決まり事であり、家族の勧めもあって料理の世界に飛び込んだ。就職先は、幸い東京一といわれる名人の元で働けた。名人についての修業だったが、30歳までに独立する目標があったので、修業中に苦労した思いは一度もなかった。子供の頃から働くことは当然であり、苦労をした、努力をしたと言うのは恥と思いつつ今日に至る。

本人近影



【お客様の目の前で天ぷらを揚げる】



【車海老の胴は、手早く揚げることで食感を残しつつ中心は「生」の状態】

17	よしだ かつひろ	63歳	畳工	《名簿番号133》
	吉田 克浩		【有限会社吉田畳店 TEL:024-922-2995】	福島県推薦

○【斬新かつ美しい円形畳製作の第一人者】

技能グランプリにおいて何度も入賞するなど高い技能を有しており、放射線状の畳表から作る「円形畳」の製作技術は前例のない高度なものである。技能検定補佐員や講師として長年尽力し、高い手縫いの技術を県内各地で伝授することにより、後進への手縫い技術継承に大きな役割を果たしている。また、多くのメディアの取材依頼に応じて畳の魅力や手縫い技術の重要性を発信し、畳離れが進み低迷する業界の活性化に貢献している。

○【丁寧にやることが上達につながる】

畳職人だった実家の父の姿を見て育ち、幼少期から畳職人に憧れ、昭和49年に畳高等職業訓練校に入校し、この道を歩み始めた。生活様式の変化による和室の減少や畳替えサイクルの超長期化、低価格を謳う全国チェーン畳店の台頭などにより、「待ち」の姿勢でも受注が絶えなかった時代が終わり、最も不得手なPR活動が必要不可欠となったことに苦勞した。手縫い技術を駆使した美しい仕上がりにこだわり、最高の仕上がりを目指し一帖一帖に手をかけ、お客様に感謝し、ご満足いただけるよう、「やっぱり畳はいい!」と想っていただけのような心血を注ぎ取り組んでいる。今後更に機械化が進んでも、この手縫い技術が若い世代に引き継がれていくことを強く願う。

本人近影



[イグサ数本を角が立つよう縫い付けスキマを埋める作業中]



[円形畳]

18	ふくだ むねお 福田 宗男	69歳	広告美術工 【福田工芸 TEL:098-947-2893】	《名簿番号137》
				沖縄県推薦

○【極めたペイント技術で、人々に親しまれる広告物を作製】

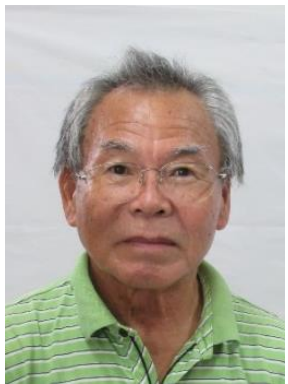
永きに亘り広告美術工として従事し、高度な技能を有している。飲食店や商業施設、公共施設等に描かれる広告画は、街の景観を損なうことなく、広告目的を的確に表現するとともに、施設利用者や住民に親しまれる広告物を作製する技能を有している。広告美術協同組合の活動をとおり、広告美術コンテスト、技能講習会等を開催するなど広告美術業の活性化に貢献している。また交通安全運動、地域活動をとおり住民と壁画を作成するなどし、広く一般に広告美術業の理解を深める活動を行っている。

○【手作りでしか出せない温かみのある広告物作りに精進】

ものづくりの職業に憧れ、高校進学時に工芸科デザインコースに進学。卒業後は木彫り職人として就業するが、デザイン業界への憧れを諦められず、デザイン業者に再就職。主に広告パネル、看板等の広告物作製に従事し、ものづくりの楽しさを実感した。30代の頃に起業し、看板、立体広告物、巨大ペイント壁画等、様々な広告物を作製。施主よりイメージに合わないとの理由で作り直しを行ったことも多々ある。

デジタル化、オートメーション化されつつある現在の広告美術業界の中で、手作業で作製する広告物は精度の面では劣るが、手作りでしか出せない温かみのある広告物を作製し、見る者を楽しませる事を目標に日々精進している。

本人近影



[箱文字を作製]



[JAの壁面に描かれる手書きペイント画]

19	しもで ゆうたろう	66歳	蒔絵師	《名簿番号142》
	下出 祐太郎		【下出蒔絵司所 TEL:075-361-0320】	京都府推薦

○【高度な伝統的蒔絵技術で新素材の利用や新意匠の考案に尽力】

蒔絵を仏壇・仏具の加飾蒔絵として一品生産に特化した専門者は全国的にも少なく、氏が率いる創業100年の工房は仏具蒔絵業界のシェアの大半を担っている。高度な伝統的蒔絵技術を有し、新素材の利用や新意匠の考案による蒔絵技術の創造的な展開、また、調査分析に基づく文化財等の的確な修復や復元ができる技能を有する。また、京都伝統工芸大学校等で教鞭を執り、後継者の育成に努めた。

○【漆・蒔絵文化の重要性を次代に伝承】

家業を継ぐものとして育ったが、大学では文学を学び現代詩に没頭。漆や蒔絵をテーマとした詩集で、2度「H氏賞」の候補に。家業を継ぎ創意を鍛えるため、漆芸作家にも師事し、日展等の公募展にも積極的に出品。いつか後世に残る仕事をしたいと願った。漆の物性や漆文化財にも興味を持ち、各時代の蒔絵の特徴的な技術を探求し、文化財調査や保存修理を手掛けた。学術的な立場で調査報告書、修理報告書を認め、学会発表も行なってきた。日本の豊かな生活文化を支えてきた蒔絵漆器が、プラスチックやシルクスクリーンに取って代わられていく現在、日本文化を支えてきた漆・蒔絵文化の重要性を次代に伝えたいと、3代にわたる受賞を機に決意を新たにしている。

本人近影



〔位牌の紋に毛打ちを施す〕



〔高台寺蒔絵(左)と復元的制作(ロンドンの美術館で展示)〕

20	かわもと かおる	55歳	データサイエンティスト	《名簿番号150》
	河本 薫		【滋賀大学広報課 TEL:0749-27-7524】	団体推薦

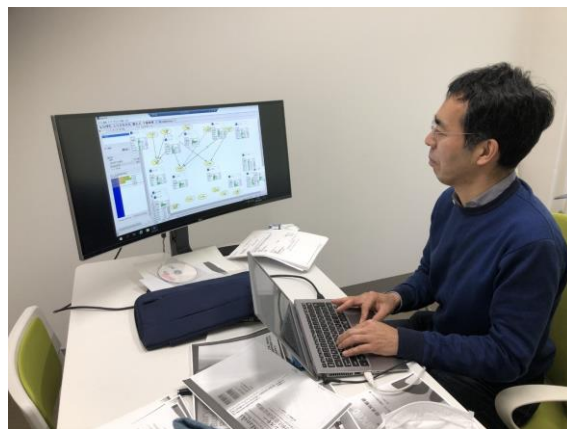
○【「見つける力、解く力、使わせる力」を教える力】

データサイエンスを用いて現場の業務を改革する技能である。企業勤務の時代に、様々な課題を実際に解決してきた。機器の故障予測、緊急車両配置の最適化、卸電力市場の価格予測、販売量低下の原因追求、プラントの異常検知、販売量の予測、配船計画の最適化、金融商品の価格変動リスク評価、顧客ターゲットングなどである。それに加えて、こうした現場への適用のノウハウを体系化し著作として発表、業界の底上げに貢献するとともに、現在はその成果を大学教育に活用し、後進の指導を行っている。

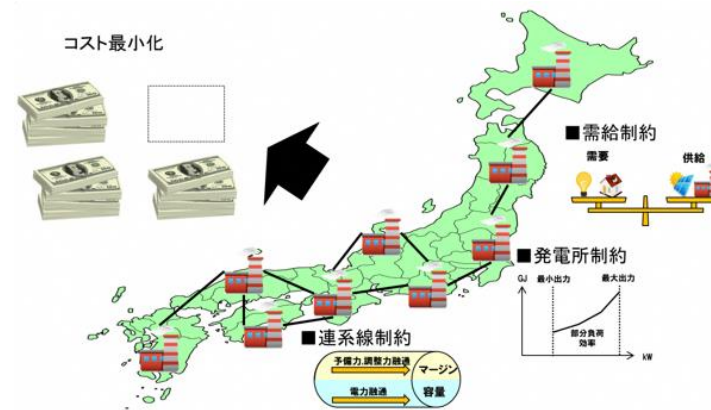
○【単なる分析結果でおわらず現場の業務変革までやりとげる】

お医者さんの使命は患者の病を治すことであるように、データサイエンティストの使命は社会や企業の問題を解決すること。そのためには、「問題を見つける」→「データ分析で解く」→「それを現場に導入する」を一貫通貫で取り組むことが私の信条。「分かる」ではなく「役立つ」を目指すデータサイエンティストの育成、そして、従来型の日本企業をデータサイエンスをビジネスに活かせる企業に変革する手助けが、私の社会への恩返し。

本人近影



【工場データで不良原因追及をしている風景】



【筆者のチームが開発した電力市場価格予測モデル】